

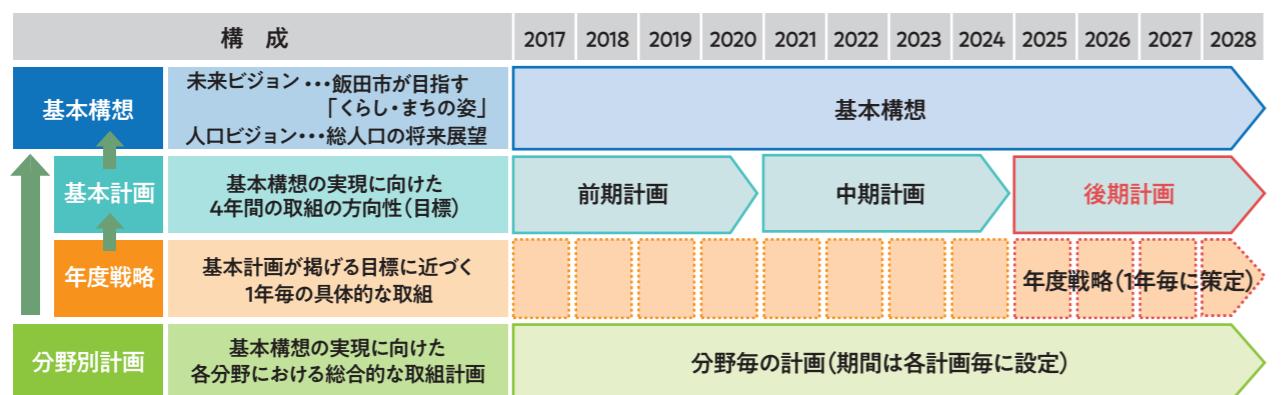
「いいだ未来デザイン2028」の基礎知識

誰もが主役の「飯田未来舞台」づくりにチャレンジ

「いいだ未来デザイン2028」は、平成29(2017)年度から令和10(2028)年度までの12年間を計画期間とした飯田市の総合計画です。『合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台』をキャッチフレーズに、2028年にみんなで実現したい「くらしの姿」「まちの姿」を描いた『未来ビジョン』と、将来の人口を展望した『人口ビジョン』を掲げています。

いいだ未来デザイン2028の計画期間と取組

12年間の計画期間を、4年間(前期・中期・後期)に区切り、時代の変化に対応するための基本計画を定めて取り組んできました。令和7(2025)年度からの4年間は、「いいだ未来デザイン2028」の総仕上げとなる後期計画の期間にあたります。

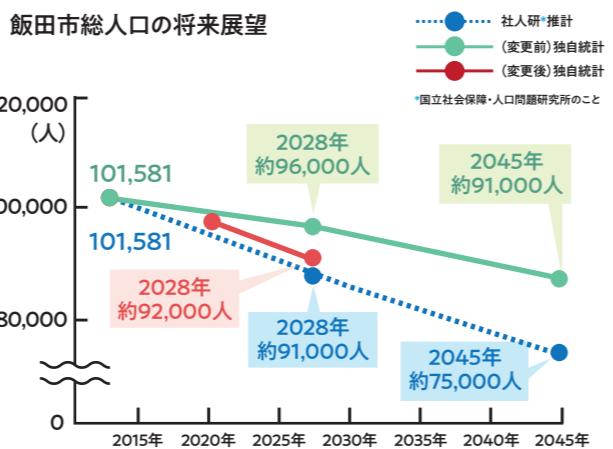


くらし豊かなまちをデザインする『未来ビジョン』



定住人口と交流人口の側面から展望した『人口ビジョン』

『人口ビジョン』は、これまでの人口動向の分析を踏まえつつ、理想の地域像を描き算出したものです。人口規模を定住人口と交流人口の2つの側面から展望しています。

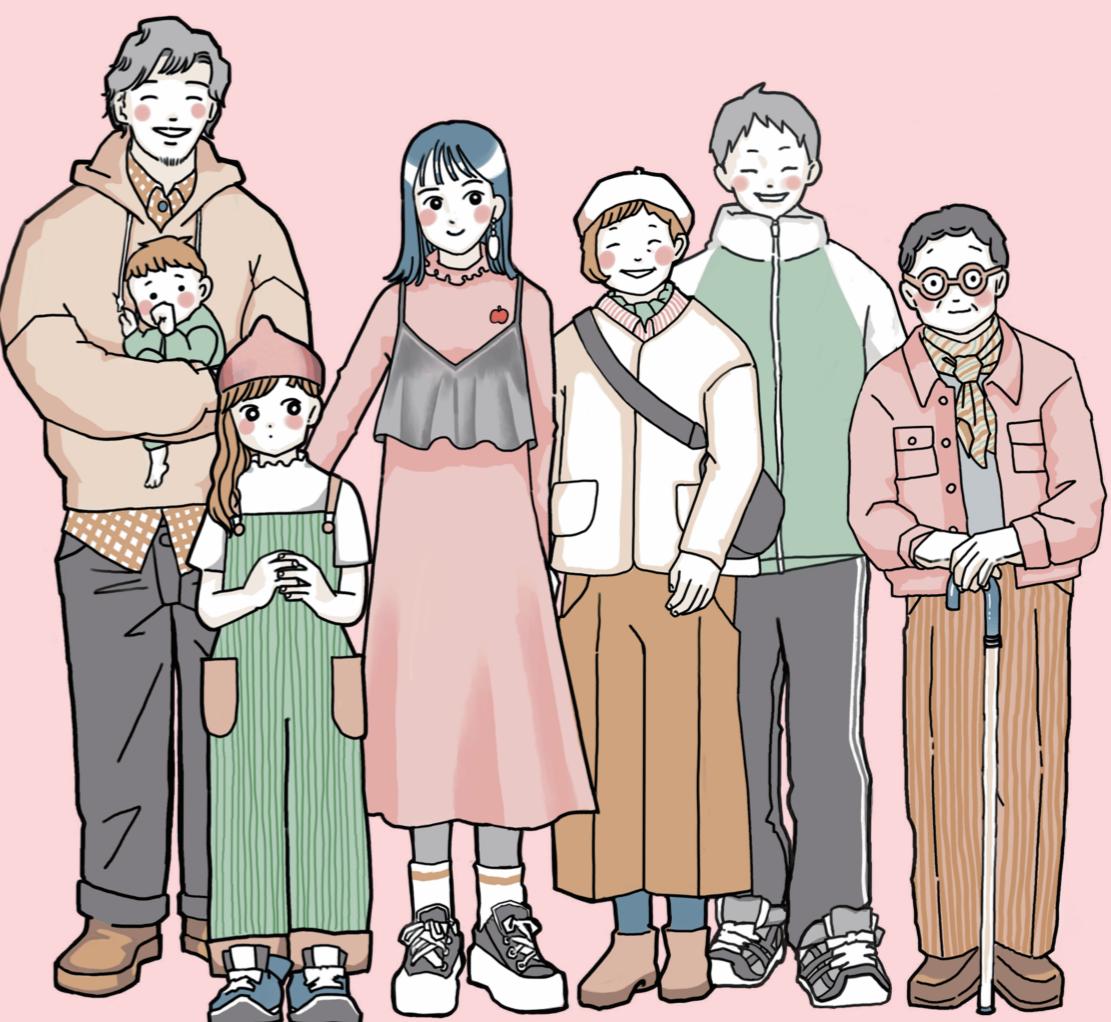


『未来ビジョン』には、人口の減少や少子高齢化が進み、暮らし方が大きく変容する中、市民の皆さんのが「どのようなまちでありたいか、どのようなくらしでありたいか」という思いや考えが込められています。

ひとりひとりをまんなかに。

いいだ未来デザイン 2028

後期計画 2025年～2028年



「いいだ未来デザイン2028」は、2017年度から2028年度までの12年を期間とした飯田市の総合計画です。2025年度からの後期計画では、くらし豊かなまちを実現するために大切にすべき4つの視点を定め、7つの基本目標を策定しました。『合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台』のキャッチフレーズのとおり、一人一人が未来舞台のまんなかに立つ主役なのです。

7つの基本目標

7つの基本目標に取り組み、誰もが暮らし続けたいまちをつくる

基本構想に掲げた目指すまちの姿の実現に向け、持続可能な社会を創造するための4つの視点をもとに、7つの基本目標と戦略を策定しました。一人一人が思いを描き、ともに取り組む未来づくりのテーマです。

基本目標 1

市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちをつくる



地域や地域課題に関心を持ち、この地域に住み続けたいという思いと行動を大切にします。

基本目標 2

人がつながり助け合い、社会基盤を強化して安全・安心なまちをつくる



地域活動を通じて人のつながりを広め、災害に備えた環境整備や防災・防犯意識向上を進めます。

基本目標 3

ここ飯田で育ってよかった。育ててよかったと実感できるまちをつくる



希望に寄り添った子育て、こどもや若者の意見を聞き共に考え実現する学びなどの環境づくりを進めます。

持続可能な社会を創造するために大切にすべき4つの視点

いいだ未来デザイン2028後期計画の策定に際しては、SDGsの考え方に基づき、いいだ未来デザイン会議(市民会議)での協議や若年層の意見を踏まえ、持続可能な社会を創造するために大切にすべき4つの視点をまとめました。持続可能な地域を創造するために、一人一人がそれぞれの立場で取り組める飯田市ならではの視点です。

地域の資源を生かし・守り、次世代につなぐ視点



自然や文化などの地域資源を活用しながら磨きあげ、次世代につないでいきます。



誰もが豊かさも、働きがいも感じられる、発展し続ける地域を創造視点



女性や若者のチャレンジの応援や新たな産業の創出により、持続的に発展する地域を創造します。

育て育ち学びあい、支え合い、自分らしい暮らしをつむぐ視点



誰一人取り残さない社会の構築に向け、自分らしい暮らしをつむいでいきます。

人々が参加し、つどい、活躍できる視点



新しい社会連携の仕組みを模索し、誰もが楽しみながらつどえる地域づくりを進めます。

SDGsで持続可能なまちづくり

SDGs(Sustainable Development Goals)は、国連で採択された持続可能な開発目標のこと、達成すべき17の目標が掲げられています。いいだ未来デザイン2028後期計画では、SDGsの考え方を基本に定めた持続可能な社会を創造するために大切にすべき4つの視点をもとに7つの基本目標を定めています。

様々な立場の市民が自分のできることで関わり、連携することで持続可能なまちづくりを推進し、SDGsの達成に寄与します。



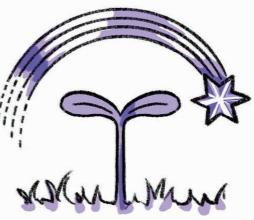
デジタル技術で便利な社会を

DXは、Digital Transformationの略で、デジタル技術を活用し働き方や暮らし方を変え、持続可能な社会を構築する取組です。デジタル技術は、様々な手続や料金等の支払など私たちの暮らしに欠かせない基盤的なインフラになっています。

いいだ未来デザイン2028後期計画では、7つの基本目標それぞれにデジタル技術の活用を位置付け、市民や事業者と協働して誰もが便利に楽しく生活できる社会を目指します。

基本目標 4

自然と共に歩む豊かな循環型社会をつくる



環境文化都市の理念や生物多様性・資源循環の理解を深め、一人一人の行動変容を促します。

基本目標 5

誰もが多様な働き方で活躍でき、次世代につながる魅力ある産業をつくる



高付加価値化・ブランド化の取組、新産業への挑戦など誰もが働き続けられる環境づくりを進めます。

基本目標 6

誰もが生涯を通じてその人らしく暮らすまちをつくる



健康づくりや介護予防に取り組むとともに、誰もが認め合い役割を持つ地域共生社会を目指します。

基本目標 7

リニア・三遠南信道時代に向けたまちの基盤をつくる



土地利用の検討を進めるほか、公共交通や道路ネットワークの強化などまちの基盤をつくります。

ムツス | 「～しようとする」という意味。「地域を愛し、自分にできることからやってみよう」という自発的な意志や具体的な行動のことで、飯田市の地域づくりの合言葉。

結い | 飯田(結いの田)の語源。まちづくりの底流に位置付く精神であり、自立した市民の協働の仕組みのこと。

7つの基本目標のくわしい戦略については、市ウェブサイトをご覧ください。

